

ホタテガイ採苗速報

親貝成熟度調査が始まりました

令和6年1月5～11日に湾内7地点で養殖2年貝の成熟度調査を、令和6年1月9日に東湾1地点で地まき貝の成熟度調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ホタテガイ成熟度調査結果

養殖2年貝の生殖巣指数は、西湾平均10.2、東湾平均13.2とそれぞれの平年値（平成5～令和5年の同時期の平均値）13.5、17.2より低く、生殖巣重量も全地点で平年値より軽い状況です（表1、図1、2）。異常貝率は、西湾平均が3.3%と平年値7.6%よりかなり低く、東湾では高い海域が見られました（表1）。

地まき貝の生殖巣指数は、13.6と平年値12.9とほぼ同じ状況です（表2、図3）。

2 海況

15m層の1月第2半旬平均水温は、平館ブイ、青森ブイでかなり高め、東湾ブイで平年並みとなっています。

※今後の見込みは次ページにあります。

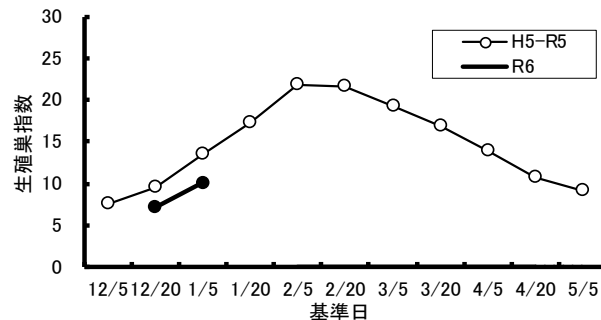


図1 養殖2年貝の生殖巣指数の推移(西湾平均)

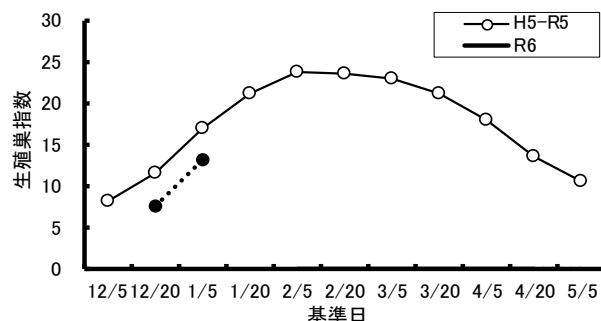


図2 養殖2年貝の生殖巣指数の推移(東湾平均)

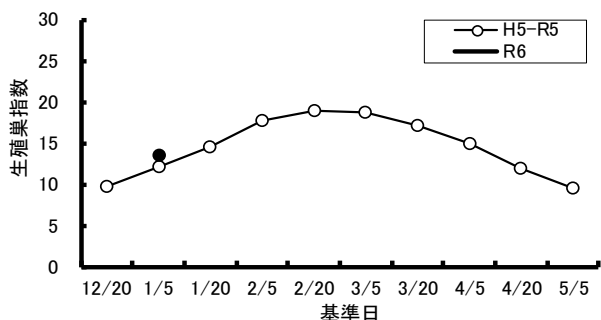


図3 地まき貝の生殖巣指数の推移(東湾平均)

※調査地点が1地点の場合は破線。

表1 垂下養殖2年貝の測定結果(調査基準日 1月5日)

調査地点	調査日	殻長 (cm)	全重量 (g)	軟体部 重量 (g)	軟体部 指数	生殖巣重量 (g)	生殖巣指数	へい死率 (%)	異常貝率 (%)
蓬田村	1月9日	9.3	76.7	34.6	45.1	2.8 (5.3)	8.1 (12.4)	10.5	0.0 (2.7)
青森市奥内	1月5日	9.9	76.0	27.6	36.3	3.7 (5.5)	12.9 (13.7)	35.7	10.0 (7.7)
久栗坂実験漁場	1月9日	10.1	118.1	47.5	40.2	5.8 (8.8)	12.1 (15.0)	4.2	3.3 (7.0)
平内町茂浦	1月9日	9.4	82.5	30.1	36.5	2.3 (4.5)	7.7 (11.3)	1.5	0.0 (7.3)
西湾平均		9.7	88.3	35.0	39.5	3.7 (6.7)	10.2 (13.5)	13.0	3.3 (7.6)
野辺地町	1月5日	9.8	108.8	41.9	38.5	6.1 (10.1)	14.6 (18.5)	45.2	10.0 (1.6)
むつ市	1月5日	9.1	93.8	44.1	46.9	5.4 (6.6)	12.4 (16.3)	-	26.7 (4.0)
川内町	欠測								
川内実験漁場	1月11日	10.0	112.8	43.0	38.1	5.4 (9.7)	12.6 (18.4)	0.0	3.3 (3.5)
東湾平均		9.6	105.1	43.0	41.2	5.6 (8.6)	13.2 (17.2)	22.6	13.3 (3.0)
全湾平均		9.7	95.5	38.4	40.2	4.5 (7.5)	11.5 (15.1)	16.2	7.6 (5.3)

(): H5-R5の平均値

※むつ市のへい死率は欠測

表2 地まき貝の測定結果(調査基準日 1月5日)

調査地点	調査日	殻長 (cm)	全重量 (g)	軟体部 重量 (g)	軟体部 指数	生殖巣重量 (g)	生殖巣指数	異常貝率 (%)
むつ市	1月9日	10.6	140.0	57.6	41.1	8.1 (7.0)	13.6 (12.9)	0.0

(): H5-R5の平均値



3 今後の見込み

生殖巣重量は西湾、東湾ともに平年より軽い状況ですが、成熟は進んでいます。

平成22年の夏季異常高水温後の12月～翌年5月に実施した親貝成熟度調査における養殖2年貝の生殖巣重量は、調査開始時は平年より軽い状況でしたが、次第に平年並みに回復し、産卵時には平年より重くなりました（図4）。今年についても今後、生殖巣重量が増加することが見込まれます。成熟状況や産卵時期については、今後の情報を参考にしてください。

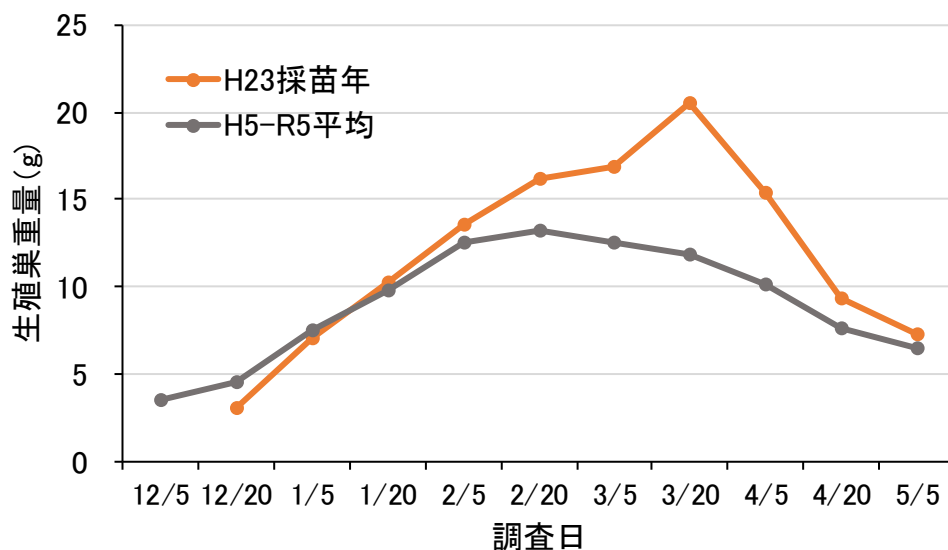


図4 平成22年12月～翌年5月に実施した成熟度調査における養殖2年貝の生殖巣重量の推移（全湾平均）

なお、秋季養殖ホタテガイ実態調査時の親貝数は7,115万枚で、安定採苗に必要な採苗器1袋当たり2万個の稚貝が確保できる親貝数の目安（1億4千万枚）の約5割となっています。今後産卵前の出荷は最小限とし、へい死を防ぐために施設を安定させることが重要です。詳しくは、令和5年12月1日に発行したホタテガイ養殖管理情報第12号を参考にしてください。